

令和3年度 兵庫県・神戸市調整会議 議事録

令和3年12月10日（金）16時00分～17時30分
神戸市役所1号館14階大会議室

出席者：（県） 齋藤知事、荒木副知事、片山副知事、藤本県議会議長、谷口県議会副議長、藤原防災監、八尋技監、小橋新県政推進室長兼企画県民部長、谷口政策創生部長、入江福祉部長、今後県参事（ワクチン接種・調整担当）、山下感染症等対策室長、竹村産業労働部長、寺尾農政環境部長、遠藤環境部長、服部県土整備部長、佐藤まちづくり部長、水埜公営企業管理者、杉村病院事業管理者、種部警察本部長、西脇神戸県民センター長

（市） 久元市長、今西副市長、油井副市長、小原副市長、坊市会議長、沖久市会副議長、大畑市長室長、山平危機管理監、辻企画調整局長、岩崎行財政局長、加藤文化スポーツ局長、森下福祉局長、花田健康局長、福本環境局長、西尾経済観光局長兼企画調整局医療・新産業本部長、三島建設局長、鈴木都市局長、長谷川港湾局長

【久元市長 開会あいさつ】

令和3年度兵庫県・神戸市調整会議の開催にあたり、齋藤元彦知事をはじめ関係の皆様方、藤本議長、谷口副議長に市役所まで足をお運びいただき感謝申し上げます。

齋藤知事が就任されて初めての県市調整会議となる。兵庫県と神戸市との間では長年に亘り県市協調に取り組み、神戸市の事業に対しても兵庫県から多大な支援をいただけてきた。

齋藤知事の就任で県市協調も新たな段階を迎えることになる。新しい発想を取り入れながらさらに成果を上げていきたい。よろしくお願い申し上げます。

当面の課題は新型コロナウイルス感染症への対応。現在感染は収まっているが、その原因解明も十分ではないため、緊張感を持って第6波に備えていくことが重要。

様々な対応が県市協調で進められている。病床の確保拡大についても兵庫県と十分な調整をさせていただき、昨日も記者会見で神戸市の病床拡大の方針について説明をさせていただいた。また、民間療養施設の確保も非常に重要であり、ワクチンの接種についても去年の6月末に急に国からの供給が全く前触れもなく著しく狭められることになり、兵庫県とご相談しながらその後の追加供給の目処を立てることができた。3回目接種も万全の態勢で臨んでいきたい。

このように目の前の危機と闘いながら、コロナ後の経済社会を見据えた神戸のまちづくり、神戸経済の活性化・発展を図っていくことが神戸市政の使命であると考えている。

震災の後、中々手が付けられなかった事業がここ数年で進んできて、目に見える形になりつつある。これを着実に前に進めていく。それから、コロナ後を見据えた経済社会の在り様を思い浮かべながら、神戸経済の活性化にどういう分野にチャンスがあるのか、どういう考え方で県市協調して民間事業者・経済界に対して支援をしていくのか、ということも大きく問われるところではないかと思う。

これらの重要な課題が今日の県市調整会議のテーマになっているので、限られた時間ではあるが、有意義な意見交換ができるよう、よろしくお願い申し上げます。

【齋藤知事 開会あいさつ】

先ほど久元市長からご挨拶いただいたとおり、8月1日に着任させていただいて初めての県市調整会議ということで、よろしくお願い申し上げます。

本日は久元市長のほか、神戸市会の坊議長、沖久副議長、市幹部の方々にもご臨席いただき、兵庫県からも県議会の先生方にご出席いただいた。日頃から県政へのご理解ご協力、感謝申し上げます。

久元市長からもお話があったとおり、コロナの対応について、8月1日に着任させていただいた際は第5波の真っ只中であり、大変厳しい状況での着任となったが、ホテル・病床の確保やワクチンの接種について久元市長はじめ、神戸市の皆様と連携をしながら医療提供体制を確保することができた。なんとか第5波を抑えることができたのは、神戸市との連携があったことが1つの大きな要因だと考えている。

今コロナが落ち着いている状況ではあるが、これから年末に向けてオミクロン株という新たな警戒すべき要因が出てきているので、兵庫県の中で一番人口が多い神戸市と共に、これからの医療提供体制の確保に向けて引き続き一緒に取り組んでいきたい。また、3回目のワクチン接種についても共に取り組んでまいりたい。

県としても大規模接種会場を2か所開設する。ワクチン接種も含め、コロナ対策にしっかりと取り組んでまいりたい。よろしくお願い申し上げます。

経済がかなり厳しい状況の中、コロナからの創造的復興として、兵庫県民割「ひょうごを旅しようキャンペーン」や飲食店の時短営業解除など県としても景気の下支えをしている。神戸市でも様々な経済対策をされているので、神戸市の三宮などの飲食店や有馬温泉など様々な観光地をしっかりと活気づけていくことも大事だと考えている。

また、兵庫県民割「ひょうごを旅しようキャンペーン」については、1月以降は近隣府県との相互乗入れを始めるよう検討している。特に有馬温泉は近隣府県からのお客様が大変多かったということで、後押しさせていただきながら、県内、特に神戸市の経済も一緒に支えていきたいと思っている。

そのうえで新たなコロナ後の社会を創っていくために、2025年大阪・関西万博に向けて人やモノ、投資の流れを兵庫県、神戸市にどのように呼び込んでいくかも大事なテーマになる。

先日、ウォーターフロントでの船の実証実験をさせていただいたが、やはり兵庫県の入口となるのが神戸市であるので、海の方から人の流れを呼び込むところでもぜひ連携を進めたい。

久元市長からお話があったとおり、神戸市のウォーターフロントは、メリケンパークも含めポートタワーの建替えやそれ以外にも民間の様々な投資を呼び込みながらどんどん姿が変わっており、驚きを持って拝見している。

かつて東京で暮らしていた時にも、帰省する度にBE KOBEなど様々に景色が変化しており、まさに久元市長がおっしゃる、「見違えるようなまちに」なっている。この流れを兵庫県としてもしっかりと受け継ぎ、神戸市以外の地域にも同じような流れを作っていくことが重要と考えている。

本日は、限られた時間の中ではあるが、コロナ対策だけでなく、コロナ後の様々なテーマについても議論させていただきたい。

県議会からも藤本議長、谷口副議長にも参画いただいているので活発な議論をさせてい

ただければと思う。よろしくお願い申し上げます。

【資料説明】

<省 略>

【意見交換】

(藤本県会議長)

私からは2点申し上げたい。

1点目は、新神戸トンネル南伸部の具体化についてである。

大阪湾岸道路の東西軸としての西伸部の整備に加え、六甲山の北側と南側をつなぐことで広域的なネットワークがさらに強化される。またこれは、神戸市の南北の利便性のみならず、六甲山より北側の市町にとっても、有益な夢のある話だと思う。

ひょうご基幹道路ネットワーク整備基本計画でも南伸部については構想路線として挙がっており、これが整備されれば、神戸空港や神戸港とつながる。

現時点での計画上の位置づけは、神戸中央線は計画路線、神戸中央線南伸部は候補路線とされており、南伸部については大阪湾岸道路との接続など実務的に整理し議論を行うべきことがあり、まずは課題解決が先決であると思われる。

一方、ポストコロナを考えていくときに、時間がかかることでもあるが、いずれ神戸港、神戸空港の持つポテンシャルの発揮にも大きく効果があると思われる。こうした状況を見据えて、県市協調の検討を引き続き進めていただきたい。

2点目は、兵庫津ミュージアム整備についてである。

県立兵庫津ミュージアムのうち、最初の県庁舎の復元施設「初代県庁館」が令和3年11月3日に開館し、久元市長にもお越しいただいた。よいものができたと思っている。150年前にここを出発点として今の兵庫・神戸がスタートしているということで、未来につなが意味でも非常に大切な施設になる。さらに令和4年度には展示施設「ひょうごはじまり館」のオープンを予定しており、多くの方がお越しになると考えている。

兵庫の子どもたちがこの施設にやってきてここから兵庫が始まったんだと学ぶ環境があることは、これからの兵庫の未来を作り上げていくための1つの大事なことだと思う。

兵庫津の魅力の向上と発信に、県・市が協調して取り組んでいただきたいと考えているので、よろしくお願い申し上げます。

(谷口県議会副議長)

神戸市の地方再犯防止推進計画について申し上げます。

平成28年に成立・施行された再犯防止推進法では、再犯防止に関する施策を実施する責務が国だけでなく地方公共団体にもあることが明記され、地方再犯防止推進計画を策定する努力義務が課されている。

県では、地方再犯防止推進計画は地域安全まちづくり推進計画と兼ねていたが、県民にとって分かりづらくボリュームも少ないため、独立計画の策定を9月定例議会で提案したところ、国の次期計画の改定内容も勘案しながら本県も独立計画の策定に向け作業していく方向のお話をいただいている。

神戸市では「神戸市強靱化計画・安全都市づくり推進計画」の中で再犯防止について触れられているが、内容は1ページ弱の内容となっている。

しかしながら、地方再犯防止計画は市町村においても作成する努力義務が課されており、年々再犯率が上昇している社会状況を考慮すると、政令指定都市である神戸市も兵庫県と共に積極的に策定に向けて取り組んでいただきたい。よろしくお願い申し上げます。

(坊市会議長)

齋藤知事はじめ、藤本県議会議長、谷口県議会副議長、また荒木・片山両副知事をはじめ県幹部の皆様にはお忙しい中ご出席いただき神戸市会を代表して感謝申し上げます。

齋藤知事におかれてはこの夏の知事選挙において当選されご活躍いただいております。心強く思っている。

それでは、意見を述べる機会をいただいたので、県市協調の更なる発展のために意見を述べたい。

本日も議題にあったように、新型コロナウイルス感染症対策や新長田合同庁舎の実現、東京事務所やシアトル事務所に代表される事務所や窓口の一元化などこれまでも様々な県市協調の成果があったと評価している。

しかしながら、兵庫・神戸を取り巻く状況はますます厳しさを増している。

一例を申し上げますと、2020年の兵庫県からの転出超過者数（日本人）は全国ワースト1位であったことや、東京や大阪など他の大都市との競争、ふるさと納税による税収の流出、公の施設の共同設置に代表される人口減少社会における行政サービスのあり方など、兵庫県・神戸市はもとより、近隣市町とも一緒に考え、取り組むべき課題が山積している。

そうした中、齋藤知事・久元市長により兵庫・神戸の新しい未来を切り開いていくため、今後の新しい県市協調の大きな柱・理念を考えていただく時期に来ていると考える。

当面人口が減少する中で財政が厳しい状態が続く。二重行政の解消という次元ではなく、互いに方向性を一にして役割分担をして双方に利益を得るための議論を始めていただきたい。

県市協調の大きな柱・理念を定めることで、人口減少への対応や、本日議題となったような都心再整備やスタートアップ支援、さらに我々が以前より申し上げている県の顔となる駅前整備への県民緑税の活用など、個別の県市協調事業への取り組み方もおのずと定まってくるのではないかと考える。

個別の案件ごとに議論を行っても信頼が深まらずに逆効果になっている部分もあるので、基本的な考え方・理念を創り上げる事をぜひお願い申し上げます。

(沖久市会副議長)

本日、県議会・市会の代表者も参加の上、今後の県市の発展のために協議できることは、非常に有意義であると感じる。

齋藤知事をはじめ県の幹部の皆様、県議会の皆様に感謝申し上げます。

意見を述べる機会をいただいたので、私から2点申し上げたい。

1点目は新型コロナウイルス感染症への対応について。

新型コロナウイルス感染症への対応については、特に今年春・夏の感染拡大期には本市でも独自の病床確保などに取り組んできたが、兵庫県にも入院調整等でご協力いただいた。改めて感謝を申し上げます。

昨日も久元市長の記者会見で話があったが、今後来ると言われている第6波への備えを十分にし、引き続き県民・市民に安心いただけるよう、医療体制の確保や感染防止対策への呼びかけなどを兵庫県・神戸市連携して取り組んでいただくようお願いしたい。

2点目は都心・三宮再整備にかかる連携推進について。

ここ十数年京都・大阪では、駅前エリアの再開発が進み賑わっている一方で、兵庫・神戸は阪神・淡路大震災の影響もあり都心部への十分な投資ができてこなかった。そのよう

な中、ようやく三宮は神戸三宮阪急ビルの開業やJR三ノ宮新駅ビル再開発計画の発表など動きが出てきている。

一方、県庁周辺の再整備においては、本日は特に議題にはなかったが県庁の周辺施設も含めた再整備基本構想が令和元年6月に示されている。

齋藤知事就任後、基本構想の見直しを検討されていると伺っているが、兵庫・神戸の顔ともなる地域である。現在の再整備基本構想の区域は、実は地域活動の場である山手地域福祉センター・生田文化会館も含まれており、県でも地域の声を一定聴いていただいている。地域の方からは早めに方向性を示してほしいとの声もあるので、よろしく願いしたい。

(齋藤知事)

坊市会議長からお話のあった、これまでの県市協調のプロジェクトを踏まえた今後の新しい柱・理念のすり合わせは大事なポイントである。神戸市と兵庫県が共通の理念に基づいて、例えば万博や人口減少に向けてどのような方向を向いていくのかという共通理念を押さえた上でプロジェクトごとに連携していく姿が大事だと私自身も思っている。どのように進めるかも含めて今後ご相談させていただきながら進めていきたい。

沖久市会副議長からお話のあったコロナ関係については、神戸市と連携させていただいた。入院調整やホテルの受入れ等についても今後もしっかり連携させていただきたい。

また、都心の再開発については、どこかのタイミングでリノベーションしていくことが都市全体の競争力と魅力を高めることにつながるので、今回、三宮を含め再開発の流れができ始めたことは大変ありがたく思っている。

ご指摘の県庁周辺の再整備については、現行の構想があるが、庁舎の建替えのみでよいのか、それとも元町からウォーターフロントへの流れもあるので、元町を含めてもう少し大きな視点で全体を俯瞰しながら何か考えられないか検討している状況である。今後、神戸市と連携しながら進めていきたい。

(久元市長)

藤本県会議長から新神戸トンネルの南伸部について大変力強い発言をいただき感謝申し上げます。現状は北播磨から人や車の流れが新名神もできたことがあって、大阪・京都方面に行って神戸に十分来ていただけていないという状況。これは抜本的に考えないといけないが中々そうもいかないなので、ぜひ新神戸トンネルの南伸部をできるだけ早く具体化させたい。これは国交省にも相当強くお願いしているので、ご支援をお願いしたい。

また、ややローカルな話になるが、神戸加東線、日の峰5丁目と箕谷の間の道がものすごく狭い。崖が川にせり出しており、トンネルを作ることにしているができるだけ早く完成させたい。

谷口県議会副議長からお話のあった、再犯防止は極めて大事なテーマ。暴力団排除条例を作って暴力団を壊滅させる取組みを進めているが、そこから抜けた人をどうするのかも含め、再犯防止は重要なテーマになる。問題は何をやるかということ。保護司の皆様の活動支援がとても重要で、保護司の活動は国の管轄であるが、神戸市では地域に密着して活動されている保護司の皆様が集まる拠点整備助成を神戸市単独で実施している。

また、出所された方の就職先の確保のため、雇用した企業の入札参加資格をアップしている。庁内での議論も必要になるがこの拡充を進めていきたい。出所された方の家族が離

散し、家族の元に戻れない状況が見られ、孤立・孤独に陥らないようにどう支えるのか、担当部署もつくっているのに、孤立・孤独対策の中でしっかり受け止めてやっていきたい。具体的に何をするのかという視点から積極的に取り組んでいきたい。

坊市会議長から兵庫県・神戸市も非常に厳しい状況にあるというお話があったが、全くその通りだと思う。力を入れていることが本当に成果が出ているのか。本日の協議事項にもあったスタートアップの関係は兵庫県・神戸市も力を入れているが、実際は2018年と2020年の大学発スタートアップ数を比較すると兵庫県は50から58に、東京都は664から931、大阪は150から218、京都は145から196と、どんどん東京一極集中が進み、大阪・京都にも大きく水を開けられているという状況。これは経済の地力が表れていることと、スタートアップは人が集まるところに集中する面もあるが、やはり我々が進めている施策がポイントを突いているのかどうか、効果が上がっているのか、このデータを見ると緊張感を持ってやっていかないといけない気がする。

(西尾経済観光局長兼企画調整局医療・新産業本部長)

スタートアップについては様々な支援を県市協調で取り組んでいるが、UNOPSなどの事業についても今年度から新たな取組を県市協調で始めている。今の取組をいかに広げていくかということをもう少し進めていきたい。参画される方をいかに多く集めてくるかが課題と考えている。そのためにもスタートアップに対して資金を供給する能力を1つ大きく考えていく必要があり、力を入れていきたい。

(齋藤知事)

市長が話されたとおり、スタートアップについては現状の数字で諦めるのではなく、本腰を入れてきっちり進めていくことがまずは大事だと考えている。県も起業プラザひょうご3拠点を神戸・姫路・尼崎に作ったばかりである。取組がよい方向を向いているのか常に見直し、必要に応じて軌道修正をしないといけないと考える。スタートアップの支援は始めたばかりなので、これからも県市協調しながら取り組んでいきたい。

また、新長田に総合衛生学院が移転するが、そこにもスタートアップ的な機能をインキュベーター的にできないか議論している。特に新長田のあたりにはケミカルシューズをはじめ様々な産業集積があるので、神戸の西の方に目配せしながら様々な取組を進めていきたい。その際には必要に応じて修正する想いを忘れずしっかり取り組んでいきたい。

水素の関係でもぜひ県市協調していきたい。水素社会への取組は極めてハードルが高く、中長期的な世界だが、神戸市が川崎重工と連携しながらポートアイランドと空港島でサプライチェーンの構築に向けた実証を進めている。また、県としても、製鉄やLNG発電などCO2削減の余地が大きい姫路港をカーボンニュートラルポートとして官民連携で進めていきたい。サプライチェーンと消費の拠点性があるところなので、着地点は模索しながらになるが、この点もぜひ県市連携して動きを作っていきたい。よろしく願い申し上げます。

ベイエリアの活性化についても神戸市のこれまでのノウハウをお借りしたい。海上交通については兵庫県も実証実験を模索しているが、定期就航は難しくてもどのように商用運航に結びつけていくか、ぜひ様々な段階で神戸市からも知恵をお借りしたい。

また、ウォーターフロント再開発についても、神戸市は既に様々な取組をされているので、サウンディング調査等のノウハウを兵庫県にもご教授いただき、神戸市以外のウォーターフロントをどうやって入口としてさらに利活用するかを教えてください。よろしく願い申し上げます。

(久元市長)

水素エネルギーの利活用、サプライチェーンについては、川崎重工が実験的に「すいそふろんていあ」という大きな水素運搬船を建設した。これは非常に夢のあるプロジェクトで、今日、川崎重工の橋本社長が新聞のインタビューで水素事業について収益を上げていくと宣言をされている。川崎重工ほか、関連企業と一緒に進めていきたいが実用化にはかなり時間がかかる。その過程でどのように水素産業の裾野を広げていくのか、事業に関連したプロジェクト、それ以外の水素の利活用の方法は色々あるので、水素エネルギーの運搬・貯蔵・輸送・供給・消費の一連の流れの中に神戸や兵庫県の企業がどういう分野に参入できるのか、経済政策として、民間企業のヒアリングも大事だが、県市で一緒に関連企業と連携して参入機会を増やしていくことが、産業政策の重要な柱である。

ウォーターフロントの土地の有効活用や海上輸送は神戸市港湾局にノウハウの蓄積があるのでぜひこれを共有しながら前に進めていきたい。

(齋藤知事)

力強いお言葉に感謝申し上げます。ぜひ一緒に様々な動きを作っていきたい。また、コロナ後のインバウンド回復期を見据えていく中で、大阪と京都にホテルがかなり増えており、兵庫・神戸はこれから厳しくなるのではないかという声もある。コンテンツを含めどのように発信し誘客していくかが大事なテーマになっていくと考える。2025年の万博を見据えて、これは兵庫県で先陣を切って進めるが、水上の流れや空からの流れ、神戸空港の国際化をどのようにやっていくか、ハードルはあると思うが、共に議論を深めて前に進めて行きたい。

(久元市長)

神戸空港の国際化は一昨年の3空港懇談会で方向性が出されている。これを確実なものにしていくためには兵庫県の支援が不可欠。よろしくお願い申し上げます。

(今西副市長)

インバウンドはコロナの前も兵庫・神戸は少ない。ゴールデンルートではなく第二ゴールデンルートのような九州の福岡に入る、九州からこちらに抜けるという位置付けをしっかり作らないといけない。ぜひ広域的な形で観光ルートを作りたい。よろしくお願い申し上げます。

(齋藤知事)

ぜひ一緒になってコンテンツの発信やルートの作成を、2年後に開催されるJRデザインエシオンキャンペーンを見据えながら進められればと思う。

(坊市会議長)

兵庫で宿泊者が少ないことの解決は難しい。姫路城と神戸の観光地をうまく結びつけて宿泊は大阪・京都でも、夜は兵庫でお金を使っただく形を作り、コロナ前と比べて圧倒的に来訪者数が少なくなっているので、世界遺産をうまく活用して神戸の食などの魅力と合わせて、夜にお金を使っただく流れを作ることが必要。

(齋藤知事)

まさにナイトタイムエコノミー、ナイトタイムツーリズムとして、夕食やその後のレジャー、エンターテインメントも含めて消費をいかに誘発するかが、宿泊以外のお金を落と

していただく方法としては大事であると思ふ。様々な方の感性・知恵を發揮しながらやり方をぜひ考えていきたい。よろしくお願ひ申し上げる。

パラ陸上についてもぜひ一緒に取り組みたい。先日、神戸・兵庫を拠点にされているパラアスリートの方と話をする機会があったが、パラリンピックで活躍されているアスリートでさえ練習環境・サポート関係で孤立を感じられているように見受けられた。ハード面の整備は費用のハードルがあるが、ソフト面でコンソーシアム的にサポートする仕組みを育むエコシステムのようなものを、延期されたパラ陸上開催までの間に官民連携で考えていきたい。

(久元市長)

私も同感。企業の参加・協力が不可欠なので県市協調で企業に対して呼びかけてアスリートの意見を聞いて、企業が社会貢献しやすいプラットフォームを考えていく。

(齋藤知事)

プラットフォームを作り、それぞれのプレイヤーの方々が無理ない範囲で色々なものを提供してアスリートを育み、アスリートが孤独を感じないようにすることが大事である。社会として兵庫・神戸が支えていることをメッセージとして伝えるだけでもかなり効果があると思ふ。兵庫・神戸にアスリートが集まるきっかけにもなると思ふので連携して進めたい。